

平成25年度初期臨床研修医マッチング結果について

茨城県医師臨床研修連絡協議会 会長 **山口 高史**
(独立行政法人国立病院機構水戸医療センター副院長)

平成25年度の初期臨床研修医のマッチングに関しては、昨年よりは減少したものの過去2番目に多い数でありおおむね妥当な結果と考えています。また、従来少なかった県央、県北で研修を希望する初期研修医も少しずつ増えてきています。ただ、全体数として減少したのは確かであり、来年に向けて気を引き締める材料としたいと思っています。

一方、先月、医道審議会医師分科会医師臨床研修部会では、地域偏在を是正する目的で都道府県別の研修医の募集定員の上限定方法の見直しが討議されました。その会議では、東京、大阪、京都、福岡以外のほとんどの県では、2013年度と比べて2015年度の募集定員は増加する案が示されています。それに加え全体の定員についても、2015年度は約1.2倍、次回見直し（2019年度）に向けて、徐々に約1.1倍とする方針を提示されており、今までの売り手市場から一変する可能性があります。本県がより多くの研修医を獲得する絶好のチャンスになるかもしれません。

いずれにしても、本県の初期臨床研修環境をよりよく整備するとともに、より多くの初期研修医に研修してもらえるよう関係各位のご協力をお願いいたします。



臨床研修医マッチングの実績状況

単位：人

	平成25年度						平成24年度					
	募集定員			マッチ者数			募集定員			マッチ者数		
	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院
全国	10,489	4,802	5,687	7,979	3,603	4,376	10,519	4,883	5,636	7,908	3,609	4,299
茨城県	186	93	93	126	71	55	178	86	92	131	76	55

平成26年度自治医科大学医学部入学試験のご案内

自治医科大学医学部第1次試験を行います。受験を希望される方は、下記により出願書類を提出してください。

出願期間

平成26年1月6日（月）～1月22日（水）午後5時必着
※消印有効期限は1月21日（火）

出願書類の提出先

〒310-8555
茨城県水戸市笠原町978-6 茨城県保健福祉部医療対策課
電話 029-301-3191（直）

提出方法

書留速達郵便、または簡易書留速達郵便にて提出してください。

第1次試験

学力試験 平成26年1月27日（月）
面接試験 平成26年1月28日（火）※学力試験及第者のみ実施

試験会場（両日とも同じ）

茨城県市町村会館（茨城県水戸市笠原町978-26）

第1次試験合格発表

平成26年1月31日（金）午後1時

第2次試験日・合格発表日

※第2次試験は、平成26年2月6日（木）に自治医科大学で実施します。
（第2次合格発表日 平成26年2月14日（金）午後5時）

「BANDOメディカルコントロール協議会の拠点病院として、地域の救命救急医療に取り組んでいます」 病院長からのメッセージ

県境地域唯一の救命救急センターを有する病院として、県外からも患者を受け入れている茨城西南医療センター病院の亀崎高夫病院長に、救急医療やBANDOメディカルコントロール協議会についてお話をうかがいました。

…地域の医療事情について教えてください。

当院は茨城県の南西の端に位置します。関東地方では東京都・神奈川県を除く4県の県境といったところであり、特に埼玉県・千葉県とは非常に近接しています。これら2県と当県は10万人あたりの医師数が全国ワースト3の常連です。さらに、当院の位置する、古河坂東医療圏は茨城県の中でも医師数の少ない地域であります。当院は、医療資源に恵まれない地域で医療を展開しているという現状であります。

…同じような規模の病院は、この地域にありますか？

勿論、同規模の病院はいくつかあります。たとえば、茨城県には友愛記念病院、埼玉県には久喜総合病院・栗橋済生会病院、千葉県には小張総合病院などです。しかしながら、どの病院も単独で全ての疾患を治療できるような診療体制にはありません。こうした中で、当院は救命救急センターとして3次医療を担い、小児医療や周産期医療も展開しております。

●県境地域全体の医療を向上させる

BANDOメディカルコントロール協議会。

…県境ならではの病院の取り組みは？

救急隊(特に救急救命士)が行う「病院前救護

茨城県厚生農業協同組合連合会 茨城西南医療センター病院
病院長 亀崎 高夫 医学博士・筑波大学臨床教授

(prehospital care)」の医学的な質を保証するためには、救急医療に精通した指導医がつねに指導できる体制を確立する必要があります。これを「メディカルコントロール」と言います。

メディカルコントロールの体制を整えるには、救急隊の他、医療機関・医師会・行政機関がお互いに協議する必要があります。そこで、救命救急センターなど地域救急医療の核となる医療機関が中心となって、地域全体の救急医療の救命率の向上を目指して組織されたのが「メディカルコントロール協議会」であります。

そして、茨城県・千葉県・埼玉県・群馬県の4県を跨いで組織されたのが「BANDOメディカルコントロール協議会」でありまして、その核となっているのが当院であります。

…救命救急センターの特色は？

「BANDOメディカルコントロール協議会」について説明させていただきましたが、県境に位置する救命救急センターでありますので、県外からの患者さんを多数受け



入れている、ということでしょうか。県外からの患者さんが20%にも及びます。

●地域医療を担う若い人材の確保と定着が課題。

…今後の課題はいかがですか？

何とんでも人材の確保ということになります。医師のみならず、看護師・薬剤師などが不足し喫緊の課題となっております。当院のある境町は、鉄道も高速道路も通っておりません。至近の駅まで30分、至近のICまで1時間はかかります。こういった地域性も妨げになっているものと思います。ただし、現在工事中の圏央道が完成した暁には、ICから数分となります。一日でも早い完成を心待ちにしているところであります。

…研修・実習についてはいかがですか？

実習につきましては、医学生は、筑波大学から常時2、3人受け入れております。看護師は、県内周辺の看護学校や県外の大学から多数の実習生を受け入れております。その他、薬剤師・リハビリ専門職などあらゆる職種の実習を受け入れております。

研修に関しましては、筑波大学附属病院からのローテーションも含めて、常時数名の初期研修医がおります。当院に入ってくれる初期研修医は、これまで隔年1人程でありました。今後は、一人でも多くの研修医がきてくれることを期待しているところであります。また、救急救命士は常時2、3人、研修しております。

…学生を対象とした研修をされているとか？

一人でも多くの学生さんに当院を知ってもらおうと、

「闘魂外来」という学生実習の試みも始めました。これは、外来を受診された患者さんを、実際に学生さんに問診・診察して頂き、診断して頂くというものです。本年7月に開催した第1回目には、筑波大学と自治医大を中心にして、20人程の参加がありまして、とても好評でした。今後も、こうした試みを続けていきたいと思っています。

●若いうちから救急医療の第一線で働く機会があります。

…先生のやりがい、生きがいは？

私の専門は脳神経外科です。当院で脳神経外科を開院して、間もなく22年になります。地域の住民の人達といろいろな機会顔を合わせることがあります。そこで、「我々は、ここに茨城西南医療センター病院があるから安心だ」というようなことを耳にした時には、ここでやってきて本当に良かった、という思いがします。そして、この地域に無くてはならない病院を完成させなくては、という思いを新たにしています。

…若手医師、医学生にメッセージをお願いします

今年の初めに「県境地域で救急患者の受け入れ拒否が繰り返され、最終的に受け入れた病院(当院)で死亡確認」という一件が報道されました。冒頭にも述べましたが、当地域は極めて医療資源に乏しい地域であります。当院も例外ではありません。こうした背景によりこの様な一件が起こったのです。しかし、この様な事が繰り返されてはけません。若い人達には、当地域の現状を理解し一緒に救急医療を担って欲しい、と切にお願いいたします。

病院紹介コーナー

水戸赤十字病院

当院は、全国赤十字92病院のひとつで、大正12年に現在の位置に開設して以来、人道・博愛の赤十字精神のもと、県央地域の住民に全人的医療の提供に努めてきました。病床数510床(稼働460床)、20診療科を擁し、1日約千人の外来患者を受け入れています。

また、地域医療支援病院、地域周産期母子医療センター、県がん診療指定病院等の指定を受けるとともに、赤十字病院の使命として災害救護活動を行うべく、DMAT2班、常備救護班7班を有し、基幹災害医療センターの指定も受け



ています。

当院における臨床研修は、「患者を全人的に診ることのできる基礎的な臨床能力を身に付けること」つまり疾患を診るのではなく、疾患を有する患者を診る態度と、医師として将来どのような分野に進むにせよ、日常診療で頻繁に遭遇する疾患や症状に適切に対応できるよう、幅広い基本的な臨床能力を有する医師を育て上げることを目標としています。

また、病床数に対し初期研修医定員が3名と少ないので、各研修医が多くの症例に接し、密度の高い研修を受けることができ、選択科目なども個々の研修医の要望に応じた、融通性のあるプログラムが組むことが可能です。

より良い研修成果を揚げられるよう研修環境を整えて、皆様をお待ちしています。



研修医Relay Essay レーエッセイ

筑波学園病院

初期臨床研修医 清水 梨華



私は中国福建医科大学を卒業し、中国で内科医として働いていました。来日後、基礎医学に従事しておりましたが、子供が中学へ進学するのを契機に、日本の地域医療の現場で臨床医になるために改めて学んでおります。

2年間という限られた時間内に豊富な症例を効率良く勉強することができるということで、縁あって筑波学園病院での初期研修をスタートして9ヶ月になりました。

毎朝のカンファレンスは各科の指導医、同僚、他のメディカルスタッフ(看護スタッフ、事務)も参加することによって、チーム医療の円滑につながるだけでなく良い社会勉強にもなっております。

担当患者の診療については、常に上級医や指導医からガイドラインに沿った指導をしていただき、抄読会では最新エビデンスを学び、ベッドサイドでは診療上注意すべきことを教えていただき、大変良い勉強になっています。

救急外来のファーストコールでは常に上級医にサポートしていただき、知識面のみならず、外科的処置や手技も身に付けられます。

多くの症例を経験することができ、地域医療に対応できる幅広い基本的臨床能力を身に付けることにおいて、筑波学園病院は適切な研修病院と感じております。

茨城県からのお知らせ

総合診療を学ぶ特訓ゼミ第3シリーズ

日程：平成26年2月15日(土)～16日(日)
 場所：茨城県教育研修センター(茨城県空間市平町1410)
 対象：医学生120名(全国公募) 参加費：4000円(宿泊費及び食事代としていただきます)

プログラム

【第1日】

13:00～	開会
13:15 ～13:45	総合診療とは? 筑波大学附属病院 総合診療科 前野 哲博氏
13:45 ～14:30	米国の家庭医療について オレゴン健康科学大学 大西 恵理子氏
14:45 ～16:15	行動変容ワークショップ -あれだけ言ったのにとつづやく前に- 筑波大学附属病院 総合診療科 横谷 省治氏、阪本 直人氏
16:30 ～18:00	総合診療の視点を生かした緩和医療 -患者さんの幸せって何だろう- 県立中央病院 看護局 角田 直枝氏 生きいき診療所 荒井 康之氏 オレゴン健康科学大学 大西 恵理子氏
19:30 ～21:30	若手医師との情報交流会

【第2日】「総合的な診療能力について 学ぶ考えるシンポジウム」に参加

総合的な診療能力について学び考えるシンポジウム

日程：平成26年2月16日(日)
 場所：つくば国際会議場(茨城県つくば市竹園2-30-3)
 対象：全国の医療関係者900名 参加費：無料

プログラム

10:00～10:15	開会
10:15 ～10:50	(第1部)「総合的な診療能力に求められるコミュニケーション術」 1.特別講演「臨床疫学を学ぶ意義」筑波大学教授 我妻 ゆき子氏
11:00 ～11:40	2.トークセッション「コミュニケーションの力、プレゼンテーションの力」 筑波大学教授 我妻 ゆき子氏、オレゴン健康科学大学 大西 恵理子氏 京都大学教授 河合 江理子氏
12:40 ～14:00	(第2部)「総合的な診療能力の本質に迫る」 1.第1セッション「総合的な診療能力で問われているもの」 ・プレゼンター 医療法人アスス理事長 太田 秀樹氏 筑波大学教授 前野 哲博氏 ・コーディネーター オレゴン健康科学大学 大西 恵理子氏 ・モデレーター 筑波大学附属病院 五十嵐 徹也氏 基本プレゼン① 「かかりつけ医の役割と求められる能力」 医療法人アスス理事長 太田 秀樹氏 基本プレゼン② 「総合診療医の魅力と可能性」 筑波大学教授 前野 哲博氏 ディスカッション 「総合的な診療能力について掘り下げる」
14:10 ～15:30	2.第2セッション「最先端の高度医療を学び、その先のQOLまでを考える」 ・プレゼンター 筑波大学教授 松村 明氏 サイバーダイナ(株)CEO 山海 嘉之氏 ・コーディネーター 京都大学教授 河合 江理子氏 ・モデレーター 県立中央病院 永井 秀雄氏 基本プレゼン① 「いばらきから創出する次世代がん治療“BNCT”」 筑波大学教授 松村 明氏 基本プレゼン② 「ロボットスーツHALと機能再生・改善治療への展開」 サイバーダイナ(株)CEO 山海 嘉之氏 ディスカッション 「科学と医療、開発と普及、そして人々の未来を変える」
15:30～15:35	閉会

申込方法 いずれも地域医療支援センターHPよりお申込いただけます。http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/wakateishi/index.html

総合診療を学ぶ特訓ゼミ開催報告

「総合診療を学ぶ特訓ゼミ第1シリーズin大洗」

日程：平成25年9月28日(土)～29日(日)
 場所：大洗シーサイドホテル
 内容：【第1日】臨床推論3番勝負

【第2日】総合診療特別プログラム

- 特別講演 筑波大学附属病院 前野 哲博氏
- 分科会集中セミナー
- 特別講話 県立中央病院 院長 永井 秀雄氏



臨床推論3番勝負



特別講演

参加者の声

- ・短時間で沢山の症例カンファを体験出来て、とても満足しています。
- ・テーマが多岐に富み、手応えのあるものばかりでした。勉強になりました。
- ・参加された先生方の能力の高さに刺激を受けました。
- ・たくさんの先生方と話し、頭を使いながら楽しい時間が過ごせました。
- ・普通の座学より格段に勉強になりました。
- ・チームディスカッション形式が非常に良かったです。互いから学び合え、刺激を受けました。
- ・総合診療医をどう取得したらよいか、とった後どのように働いたらよいかなど、前野先生の講演は、わかりやすく良かったです。
- ・これまでの考え方が変わりました。永井先生がこれまで医師として感じたことを聞いて貴重な時間になったと感じています。
- ・医療とは診断だけでなく、診療が大事であるということを感じました。
- ・医師その全てが総合的に患者を診て、治療にあたるという原点に立ち戻らせていただきました。
- ・医学知識を十分に持って患者と真摯に向き合う態度を改めて教えて頂き、自分ももっと勉強しないとダメだなと思いました。

「総合診療を学ぶ特訓ゼミ第2シリーズin笠間」

日程：平成25年11月2日(土)～3日(日)
 場所：茨城県教育研修センター
 内容：【第1日】特別講演(Dr.Gautam Deshpande)

- 分科会ワークショップ ●イブニングカンファレンス

【第2日】特別講演(Dr.Richard Birrer)

- ワークショップ



特別講演(Dr.Gautam Deshpande)



特別講演(Dr.Richard Birrer)

参加者の声

- ・Deshpande先生の話聞いて、もっと適確な問診スキルを身に付け、自分のものになるように努力していきたいと思いました。
- ・まず多くの鑑別診断をあげ、そこから効果的な問診や身体診察をして、診断を絞っていくことが如何に重要であるかを学びました。
- ・チーム医療の大切さを知ることが出来たのと併せて、チームではそれぞれの特性を尊重していくことが大切だということも学びました。
- ・西野先生のワークショップでは、ここまで腹単で分かるのかと目から鱗が落ちるという気持ちでした。
- ・本当に感動しました。ここまで腹単で診断できるとは知りませんでした。
- ・Dr.Richard Birrerの講演は、本当に本当に素晴らしいかったです。今まで受けた講義の中で最高かも知れません。
- ・登山の過酷さと高地特有の医学的問題について興味深く聞かせていただきました。普段聞けない話を聞いてとても感動しました。
- ・チームドクターの守備範囲の広さに驚きました。
- ・選手のパフォーマンスに対するスポーツドクターの影響、重要性を初めて知ることができました。

茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内) TEL:029(301)3191

http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp